

# ロタウイルス感染症予防接種の説明書

生ワクチン経口

ロタウイルス感染症とは	ロタウイルス感染症の主な症状は乳幼児に多くおこる急性胃腸炎です。乳幼児が発症すると激しい下痢・嘔吐により脱水症状を起こしやすく、まれに脳や腎臓などに影響を及ぼすこともあります。	
ワクチンの種類	ロタリックス (経口弱毒生ヒトロタウイルスワクチン)	ロタテック (5価経口弱毒生ロタウイルスワクチン)
接種対象年齢 接種回数・間隔	出生6週0日後から24週0日後までに 27日以上の間隔をおいて2回	出生6週0日後から32週0日後までに 27日以上の間隔をおいて3回
	<p>※初回接種は出生14週6日後までに完了してください。標準的な開始日は生後2か月です。</p> <p>※途中でワクチンの種類を変更することはできません。1回目に接種したワクチンの規定回数を接種してください。</p> <p>※ワクチンがうまく飲めなかったり、吐いたりしてしまった場合でも、飲み込みが確認できていれば、ワクチンの効果に問題はありませので、再度接種する必要はありません。</p>	
ワクチンの副反応	<p>○主な副反応は、ぐずり、下痢、嘔吐、胃腸炎、発熱、咳・鼻水などです。</p> <p>○接種後に腸重積症のリスクが少し増加することが報告されています。</p> <p>.....</p> <p>予防接種を受けたあと、副反応が起こった場合は医師の診察・治療を必ず受けてください。</p>	
受けることができない人	<p>○明らかに発熱のある人 (37.5°C以上の場合)</p> <p>○重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人</p> <p>○その日受ける予防接種に含まれる成分でアナフィラキシーを起こしたことがある人</p> <p>○腸重積症をおこしたことがある人</p> <p>○腸重積症の発症を高める可能性のある未治療の先天性消化管障害がある人</p> <p>○重症複合型免疫不全症 (SCID) がある人</p> <p>○医師が不適当と判断した人</p>	
予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人	<p>○心臓病、肝臓病、腎臓病、血液の病気などの治療を受けている人</p> <p>○以前に予防接種を受けたとき、2日以内に発熱、発しん、じんましんなどアレルギーを思わす異常がみられた人</p> <p>○今までにけいれんを起こしたことがある人</p> <p>○過去に免疫不全の診断がなされた人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人</p> <p>○予防接種に含まれる成分にアレルギーがある人</p> <p>○発育で経過観察といわれている人</p> <p>○胃腸障害がある人</p>	
ワクチン接種後の注意	<p>○接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこる可能性がありますので、医師とすぐ連絡がとれるようにしておきましょう。</p> <p>○健康状態の観察を行い、体調の変化に十分に注意し、高熱・けいれん・腸重積症と思われる症状 (泣いたり不機嫌になったりを繰り返す、嘔吐を繰り返す、ぐったりして顔色が悪くなる、血便が出るなど) が見られた場合は、速やかに医師の診察を受けるようにしてください。</p> <p>○接種後にウイルスが便などを介して家族や周りの人に感染することがあります。おむつ交換した後には手洗いをするなど注意してください。特に免疫力が低下した人と密接な接触がある場合は注意してください。</p> <p>○接種後当日は過度な運動を控え、1週間は体調の変化に注意しましょう。</p> <p>○接種当日の入浴制限や母乳を含む固形食及び流動食に関する制限はありません。</p> <p>○このワクチンとほかのワクチンの同時接種を希望する場合は、医師にご相談ください。</p>	